

1 法人情報

1.1 法人格・法人名称・住所

有限会社あい (群馬県邑楽郡大泉町日の出 1-10)

1.2 代表者名

三友 愛 (みとも あい)

1.3 研修事業担当取締役名

三友 義信 (みとも よしのぶ)

2 事業所名称

2.1 事業所名称・住所

ラクティ ケアカレッジ

2.2 理念

すべての人の いきいきとした 暮らしのために

2.3 学則

別紙ア参照

2.4 研修施設、設備

別紙イ参照

3 研修事業情報

3.1 研修概要

3.1.1 対象

受講対象者は介護に従事することを希望する者であり、16歳以上の演習を含む全ての課程を自分ひとりの力で受講・遂行することが可能な者とする。

3.1.2 定員

10名

3.1.3 指導者数

9名

3.1.4 受講までの流れ

(1) 募集方法 ホームページ、ポスター、配布チラシ等により行う。

(2) 受講申込みは、申込書を持参又は郵送により受付をする。

(3) 受講者は、受講申込受付時または初回の講義時に、下記の公的証明書の原本の提示を行わなければならない。

(公的証明書)

(ア) 戸籍謄本、戸籍抄本若しくは住民票

(イ) 住民基本台帳カード

(ウ) 在留カード等

(エ) 健康保険証

(オ) 運転免許証

(カ) パスポート

(キ) 年金手帳

(ク) 国家資格を有する者については、免許証または登録証

3.1.5 費用

受講料 64,300 円 テキスト代 5,500 円

計 69,800 円（消費税込み。交通費・昼食等は各自負担とする。）

※キャンペーン等により割引価格を適用する場合がある

※当社へ入社後一定の条件を満たした場合はキャッシュバックを適用する場合がある

※欠席による補講を受講した場合は、別途補講料（1時間につき税込 3,300 円）

3.1.6 その他

申込手続き等不明点は直接お問合せください。

3.2 過程責任者

取締役 三友義信（介護福祉士）

3.3 研修カリキュラム

3.3.1 シラバス

別紙ウ参照

3.3.2 科目別担当教官名

別紙エ参照

3.3.3 科目別特徴

別紙オ参照

3.3.4 科目別通信・事前・事後学習とする内容及び時間

別紙オ参照

3.3.5 通信課程の教材・指導体制方法・課題

(1) 学習方法

通信学習はテキストに沿って個別で学習を行ない、「論述式問題」等によるレポートを実施する。解答後、合格の者には、解答・解説を配布し、本人による復習を実施する。提出課題及び各提出期限は別紙のとおり。提出期限厳守のこと。

(2) 評価方法

各レポートは理解度 7 割以上を合格とする。7 割未満の場合は再提出とし、合格するまで再提出とする。

(3) 個別学習への対応方法

必要に応じて、講師による指導及び補習等は適宜対応する。

3.3.6 研修修了の認定方法

修了認定は、受講すべき科目をすべて履修後、修了評価筆記試験を実施し、本会の定める修了評価を行い適切と認めた者とする（修了評価筆記試験評価基準は正答率 7 割以上を修了とする）。なお、修了評価筆記試験の評価基準に満たない場合、再試験を実施し、再度修了評価を行う。

3.4 実習施設・実習内容

【訪問介護】 ケアステーション ラクティ日の出（大泉町日の出 1-10）

実習担当者：彼島恵理、谷井晴美、村山美奈子、橋本綾子

実習受入人数：1日につき4名、1コースにつき10名

実習内容：訪問介護の意義・役割について説明、同行する利用者様の概要・注意点伝達、同行指導、振り返り指導

【通所介護】 デイフィット ラクティ（大泉町日の出 1-10）

実習担当者：山路由美恵

実習受入人数：1日につき4名、1コースにつき10名

実習内容：通所介護の意義・役割について説明、利用者様の概要・注意点伝達、トレーニング見学、コミュニケーション、振り返り指導

4 講師情報

- 三友愛 介護福祉士 現職 通所介護管理者兼生活相談員
- 松木圭子 准看護師 現職 通所介護看護師兼機能訓練指導員
- 彼島恵理 介護福祉士 現職 訪問介護管理者兼サービス提供責任者
- 谷井晴美 介護福祉士 現職 訪問介護サービス提供責任者
- 村山美奈子 介護福祉士 現職 訪問介護サービス提供責任者
- 橋本綾子 介護福祉士・社会福祉士 現職 訪問介護サービス提供責任者
- 寒河江美樹 介護福祉士 現職 福祉用具管理者兼福祉用具専門相談員
- 三友義信 介護福祉士 現職 通所介護介護職

5 実績情報

2022年度初回開催のためそれ以前は実施無し

6 連絡先等

6.1 申込・資料請求先

有限会社あい ラクティ ケアカレッジ

〒370-0525

群馬県邑楽郡大泉町日の出 1-10

TEL:0276-55-4203

6.2 苦情対応者名

有限会社あい ラクティ ケアカレッジ 三友義信

以上

2022年（令和4年）6月1日

令和 4 年度 有限会社あい 介護職員初任者研修 学則

第 1 条 事業者の名称及び所在地

名 称：有限会社あい ラクティ ケアカレッジ

所在地：群馬県邑楽郡大泉町日の出 1-10

連絡先：0 2 7 6 - 5 5 - 4 2 0 3

第 2 条 事業の目的

高齢者の増大かつ多様化するニーズに対応した適切な介護サービスを提供するため、必要な知識と技術を有する介護員の養成を行い、広く福祉社会に貢献することを目的とする。

第 3 条 研修事業の名称及び実施課程及び形式

名称：介護職員初任者研修事業

実施課程：介護職員初任者研修課程

形式：通信形式

第 4 条 年度事業計画

別紙のとおり

第 5 条 受講対象者

受講対象者は介護に従事することを希望する者であり、16歳以上の演習を含む全ての課程を自分ひとりの力で受講・遂行することが可能な者とする。

第 6 条 研修参加費用

受講料 64,300 円

テキスト代 5,500 円

計 69,800 円（消費税込み。交通費・昼食等は各自負担とする。）

※キャンペーン等により割引価格を適用する場合がある

※当社へ入社後一定の条件を満たした場合はキャッシュバックを適用する場合がある

※欠席による補講を受講した場合は、別途補講料（1時間につき税込 3,300 円）

第 7 条 使用教材

テキスト：介護職員初任者研修テキスト 全 2 巻 中央法規出版

第 8 条 研修カリキュラム

様式第 2-1 号のとおり

第 9 条 研修実施会場

様式第 1 - 4 号および第 1 - 6 号のとおり

第10条 科目ごとの担当講師名一覧

様式第2-1号 のとおり

第11条 募集方法、募集手続き及び本人確認の方法

- (1) 募集方法 ホームページ、ポスター、配布チラシ等により行う。
- (2) 受講申込みは、申込書を持参又は郵送により受付をする。
- (3) 受講者は、受講申込受付時または初回の講義時に、下記の公的証明書の原本の提示を行わなければならない。

公的証明書

- (ア) 戸籍謄本、戸籍抄本若しくは住民票
- (イ) 住民基本台帳カード
- (ウ) 在留カード等
- (エ) 健康保険証
- (オ) 運転免許証
- (カ) パスポート
- (キ) 年金手帳
- (ク) 国家資格を有する者については、免許証または登録証

第12条 科目の免除

特別養護老人ホーム等の介護職員等として、開講日時点で3カ月以上あり、かつ十字日数が45日以上あるものが研修を受講する場合は、群馬県介護員養成研修実施要項別紙2に基づき、実習部分を免除することができる。但し、免除要件確認は、「実務経験証明書」の提出を行うこと。

第13条 通信形式の実施方法

(1) 学習方法

通信学習はテキストに沿って個別で学習を行ない、「論述式問題」等によるレポートを実施する。解答後、合格の者には、解答・解説を配布し、本人による復習を実施する。提出課題及び各提出期限は別紙のとおり。提出期限厳守のこと。

(2) 評価方法

各レポートは理解度7割以上を合格とする。7割未満の場合は再提出とし、合格するまで再提出とする。

(3) 個別学習への対応方法

必要に応じて、講師による指導及び補習等は適宜対応する。

第14条 研修修了の認定方法

修了認定は、受講すべき科目をすべて履修後、修了評価筆記試験を実施し、本会の定める修了評価を行い適切と認めた者とする（修了評価筆記試験評価基準は正答率7割以上を修了とする）。なお、修了評価筆記試験の評価基準に満たない場合、再試験を実施し、再度修了評価を行う。

第15条 研修出席者の取扱い

毎回講義時、指定された出席簿に自筆にてサインを行うこと。

第16条 欠席・遅刻・補講の取扱い

原則として欠席・遅刻は認めない。ただし、やむを得ない場合に限り、補講を認める。この場合は、研修開始から8か月以内までに設けられた補講日に受講することにより修了を可とする。補講に係る費用は、1時間につき3,300円（税込）とする。

第17条 受講の取消

次の各号に1つでも該当する受講者は、受講を取り消すことがある。

なお、受講を取り消した場合であっても、当該受講者へは受講料等の返還は行われぬ。

- (1) 学習意欲が著しく欠け、修了の見込みがないと認められる者
 - (2) 研修の秩序を乱したり、その他受講生としての本分に反したりする者
 - (3) 理由無く無断欠席が2回以上の者
 - (4) 履修期間を経過した者
- (原則8か月以内。ただし、病気等やむを得ない理由による場合は1年6か月以内)

第18条 非常災害時について

台風等非常災害その他急迫の事情があるときは、授業を休講とする。休講となった授業については補講で補うこととする。

第19条 修了証明書の交付

第14条で適切と認めた方は、当社において規定する修了証明書及び修了証明書（携帯用）を交付する。

第20条 修了者の管理

- (1) 修了者は修了者名簿に記載し、群馬県指定の様式に基づき知事に報告する。
- (2) 修了証明書等に紛失等があった場合には、修了者の申し出により有料にて再発行を行なう。
(発行手数料 A4サイズ・携帯用ともに 1枚 1,000円（税込）)
- (3) 修了者名簿を永年保存とし、記載された内容は個人情報保護規定に基づき厳正に管理する。

第21条 個人情報管理

- (1) 当該研修における個人情報について厳正に管理を行う。
- (2) 当事業者は事業実施や本人確認書類などにより知りえた受講生などの個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用しない。
- (3) 受講者については、講義・実習先などで知りえた個人情報をみだりに他人に知らせ、または不当な目的に使用することがないよう受講者から誓約書の提出を求める。

第22条 情報開示するホームページアドレス

<http://ai-kaden.jp>

第23条 研修事業執行担当部署

研修受講に関する連絡先、担当者は次のとおりとする。

有限会社あい 養成事業部

担当者：三友義信

所在地：〒370-0525 群馬県邑楽郡大泉町日の出 1-10

連絡先：(0276) 55-4203 FAX (0276) 55-4205

第24条 その他研修実施に係る留意事項

(1) 研修に関して苦情及び事故が生じた場合には迅速に対応する。

(3) この学則に定めるもののほか、必要な事項については当社が定める。

第25条 附則

この学則は、令和 4 年 8 月 1 日から施行する。

研修会場

区分	会場名	所有者	所在地	面積 (㎡)	定員 (名)	1人あたりの面積 (㎡/名)	介護用具等			
							介護用ベッド ドー式 (サイド レール等含 む)	車椅子	ポータブル トイレ	家庭用浴槽 (施設一般 浴槽使用)
講義会場	ケアステーション クテイ日の出	有限会社あい	邑楽郡大泉町日の出 1-10	30	10	3.00	2	1	1	1
演習会場	ケアステーション クテイ日の出	有限会社あい	邑楽郡大泉町日の出 1-10	30	10	3.00	2	1	1	1
面接指導 会場 (通信の場合)	ケアステーション クテイ日の出	有限会社あい	邑楽郡大泉町日の出 1-10	30	10	3.00	2	1	1	1

シラバス・科目別特徴

<p>科目名</p>	<p>職務の理解</p>	
<p>到達目標</p>	<p>○研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージをもっと実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。</p>	
<p>指導の視点</p>	<p>○研修過程全体（130時間）の構成と各研修科目（10科目）の相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるように素地の形成を促す。 ○短聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解させる。</p>	
<p>授業項目</p>	<p>目標・講義内容・学習課題の概要等</p>	<p>学習のポイント</p>
<p>多様なサービスの理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険による居宅サービス ・介護保険による施設サービス ・介護保険外のサービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険による居宅サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する。 ・介護保険による施設サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する。 ・介護保険外のサービスの種類と、サービスが提供される意義や目的を理解する。
<p>介護職の仕事内容や働く現場の理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスを展開する現場の実際 ・介護サービスの提供にいたるまでの流れ ・介護過程とチームアプローチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種サービスの内容や利用者像などを通じて、介護職の仕事内容や働く現場を理解する。 ・ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供にいたるまでの流れを理解する。 ・チームアプローチの必要性と、具体的な連携方法を理解する。
<p>科目名</p>	<p>介護における尊厳の保持・自立支援</p>	
<p>到達目標</p>	<p>○介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスの提供にわたるための基本的視点を理解する。</p>	
<p>指導の視点</p>	<p>○具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。 ○具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ○利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。 ○虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。</p>	
<p>授業項目</p>	<p>目標・講義内容・学習課題の概要等</p>	<p>学習のポイント</p>
<p>人権と尊厳を支える介護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権と尊厳の保持 ・ICF ・QOL ・ノーマライゼーション ・虐待防止・身体拘束禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要とする人が有する権利とは何かを学ぶ。 ・介護に関する基本的な視点（ICF、QOL、ノーマライゼーション）について理解する。 ・利用者の権利を擁護するための制度の種類や内容について理解する。
<p>自立に向けた介護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援 ・介護予防 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護における自立とは何かを学ぶ。 ・「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について理解する。 ・介護の予防の考え方について理解する。

<p>科目名</p>	<p>介護の基本</p>	
<p>到達目標</p>	<p>○介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 ○介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとることができる。</p>	
<p>指導の視点</p>	<p>○可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 ○介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人で対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することと実感できるように促す。</p>	
<p>授業項目</p>	<p>目標・講義内容・学習課題の概要等</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護環境の特徴 介護の専門性 介護にかかわる職種 専門職の倫理の意義 介護福祉士の倫理 介護における安全の確保 事故予防、安全対策 感染対策 介護職の心身の健康管理 感染予防 	<p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護環境の特徴（施設と在宅との違い、地域包括ケアの方向性など）を学ぶ。 介護の専門性について考え、専門職に求められるものが何かを学ぶ。 多職種連携の目的を学び、利用者を支援するさまざまな専門職について理解する。 介護職がもつべき職業倫理を学ぶ。 日本介護福祉士会倫理綱領を参考に介護職にかかわる倫理綱領を理解する。 利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ。 利用者を巻き取り巻き介護チームで安全な生活を守るしくみについて学ぶ。 介護の特徴をふまえて、介護職自身の健康管理の必要性について学ぶ。 介護職に起こりやすいところとからだの病気や障害について学ぶ。 介護職自身の健康管理の方法（病気や障害の予防と対策）について学ぶ。
<p>科目名</p>	<p>介護・福祉サービスの理解と医療との連携</p>	
<p>到達目標</p>	<p>○介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを習得する。</p>	
<p>指導の視点</p>	<p>○介護保険制度・障害者自立支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ○利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者自立支援制度、その他の制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。</p>	
<p>授業項目</p>	<p>目標・講義内容・学習課題の概要等</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度創設の背景および目的、動向 介護保険制度のしくみの基礎的理解 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 医療行為と介護 <ul style="list-style-type: none"> 訪問看護 施設における看護と介護の役割・連携 <ul style="list-style-type: none"> 障害者福祉制度の概念 障害者福祉制度のしくみの基礎的理解 個人の権利を守る制度の概要 	<p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度が創設された背景を理解したうえで、制度の目的と動向について学ぶ。 介護保険制度の基本的なしくみを理解する。 介護保険制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに、制度の財政について学ぶ。 介護職と医療行為の実情と経過について理解する。 在宅および施設における介護職と看護職の役割・連携について理解する。 リハビリテーションの理念と考え方について理解する。 障害者福祉制度における障害の概念について、その歩みをふまえて学ぶ。 障害者福祉制度の基本的なしくみについて理解する。

科目名	介護におけるコミュニケーション技術	
到達目標	○高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限のとるべき（とるべきでない）行動例を理解する。	
指導の視点	○利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。 ○チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。	
授業項目	目標・講義内容・学習課題の概要等 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの意義、目的、役割 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの技法 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 	学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する。 ・介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する。 ・事例を通して、利用者を通して、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する。
介護におけるコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・記録における情報の共有化 <ul style="list-style-type: none"> ・報告・連絡・相談 ・コミュニケーションをうながす環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点などについて学ぶ。 ・チームのコミュニケーションに必要な報告・連絡・相談の意義と目的を理解し、具体的な方法について学ぶ。 ・会議の意義と目的を理解し、具体的な進め方について学ぶ。
科目名	老化の理解	
到達目標	○加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。	
指導の視点	○高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。	
授業項目	目標・講義内容・学習課題の概要等 <ul style="list-style-type: none"> ・老年期の定義 ・老年期の発達と老化にもなう心身の変化の特徴 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 	学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・老年期や高齢者の定義について理解する。 ・老化が影響を及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する。 ・老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解する。 ・多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解する。
老年期の発達と老化にもなう心身の変化の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の症状・疾患の特徴 ・高齢者の疾病と日常生活上の留意点 ・高齢者に多い病気と日常生活上の留意点 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の多くにみられる症状や訴えがどのような疾病から起こるかなど、その特徴について理解する。 ・高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について理解する。

科目名	認知症の理解	
到達目標	○介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する。	
指導の視点	○認知症の利用者の心理・行動の実態を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 ○複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。	
授業項目	目標・講義内容・学習課題の概要等 <ul style="list-style-type: none"> 認知症のケアの理念 認知症ケアの視点 認知症の概念 認知症の原因疾患とその病態 原因疾患別ケアのポイント 健康管理 	学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 「認知症を中心としたケア」から、「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する。 問題視するのではなく、人として接することを理解する。 できないことではなく、できることをみえて支援することを理解する。 老化のしくみと脳の変化を学び、認知症の原因を理解する。 認知症に類似した症状をもつ疾病について学ぶ。 アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症のおもな原因疾患の病態、症状について学ぶ。
医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 認知症の人への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の症状を知ることによって、どのようなケアが必要かを学ぶ。 認知症の人の行動と環境との関係について理解する。 病気の症状があっても、その人の尊厳を守る視点をもつことについて理解する。
認知症にともなうところとからだの変化と日常生活	<ul style="list-style-type: none"> 家族への支援 認知症の人を介護する家族へのレスパイトケア 	<ul style="list-style-type: none"> 家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性を学ぶ。 家族とは助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを学ぶ。
家族への支援	障害の理解	
科目名	障害の理解	
到達目標	○障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。	
指導の視点	○介護において障害の概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。 ○高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。	
授業項目	目標・講義内容・学習課題の概要等 <ul style="list-style-type: none"> 障害の概念とICF 障害者福祉の基本理念 	学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 「障害とはどういうものなのか」という考え方を学ぶ。 国際生活機能分類（ICF）にもとづきながら、「障害」の概念について理解する。 障害者福祉の基本理念（ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン）について理解する。 障害の原因となるおもな疾患を理解する。 障害にともなう心理的影響、障害の受容を理解する。 障害のある人の生活を理解し、介護上の留意点について学ぶ。 家族支援は、家族介護の肩代わり支援だけではなくことを学ぶ。 日本に求められるレスパイトサービスの課題を学ぶ。
障害の基礎的理解	<ul style="list-style-type: none"> 身体障害・知的障害・精神障害・発達障害・難病 	
障害の医学的側面、生活障害などの基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> 家族の理解と障害の受容支援 介護負担の軽減 	
家族の心理、かわり支援の理解		

<p>科目名</p>	<p>こころからだのしくみと生活支援技術</p>
<p>到達目標</p>	<p>○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p>
<p>指導の視点</p>	<p>○介護実践に必要なこころからだのしくみの基礎的な知識と介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体各部の名称や機能等が列挙できるように促す。 ○サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとつての生活の充足を促し、必要とない技術が必要となることへの理解を促す。 ○例えば『食事の介護技術』は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事が提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ○「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。</p>
<p>授業項目</p>	<p>目標・講義内容・学習課題の概要等</p>
<p>【介護に関する基礎的理解】</p>	
<p>介護の基本的な考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理論にもとづく介護 ・法的根拠にもとづく介護
<p>介護に関するこころのしくみの基礎的理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習と記憶に関する基礎知識 ・感情と意欲に関する基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因
<p>介護に関するこころのしくみの基礎知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の維持・恒常のしくみ ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 ・中枢神経と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識
<p>【自立に向けた介護の展開】</p>	
<p>生活と家事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活と家事の理解 ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援
<p>快適な居住環境整備と介護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を持続していくための家事の重要性について学ぶ。 ・家事援助（調理、洗濯、掃除などの援助）は利用者にとつてどのような意味があるのかを理解する。 ・家事援助とは何かについて具体的に理解する。 ・安心して快適に生活するために必要な環境の整備とは何かについて学ぶ。 ・住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について学ぶ。 ・高齢者や障害のある人が生活するなかで、住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点を学ぶ。

<p>整容に関連した ところからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基礎知識 ・整容の支援技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・整容の必要性と、整容に関連するところからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し、整容の介護を行うための技術を身につける。
<p>移動・移乗に関連した ところからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関する基礎知識 ・移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法 ・利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援 ・移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法 ・移動と社会参加の留意点と支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗の必要性と、移動・移乗に関連するところからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し、移動・移乗の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について理解する。
<p>食事に 関連した ところからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食事に 関連する基礎知識 ・食事環境の整備と食事に 関連する用具の活用方法 ・楽しい食事を 阻害する要因の理解と支援方法 ・食事と社会参加の 留意点と支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の必要性と、食事に 関連するところからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し、食 事の介護を行うための技術を 身につける。 ・心身機能の低下が食事に 及ぼす影響について理解する。
<p>入浴・清潔保持に 関連した ところからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴・清潔保持に 関連する基礎知識 ・入浴・清潔保持に 関連する用具の活用方法 ・楽しい入浴を 阻害する要因の理解と支援方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴・清潔保持がもたらす 心身への効果と、入浴に 関連するところからだのしく みを理解する。 ・利用者本人の力をいかし、 楽しい入浴の介護を行うた めの技術を身につける。 ・心身機能の低下が入浴・ 清潔保持に及ぼす影響に ついて理解する。
<p>排泄に 関連した ところからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄に 関連する基礎知識 ・排泄環境の整備と 関連する用具の活用方法 ・爽やかな排泄を 阻害する要因の理解と支援方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄の必要性と、排泄に 関連するところからだのしく みを理解する。 ・利用者本人の力を活用し、 気持ちのよい排泄の介護を 行うための技術を身につ ける。 ・心身機能の低下が排泄に 及ぼす影響について理解 する。
<p>睡眠に 関連した ところからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に 関連する基礎知識 ・睡眠環境の整備と 関連する用具の活用方法 ・快い睡眠を 阻害する要因の理解と支援方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠の必要性と、睡眠に 関連するところからだのしく みを理解する。 ・心地よい睡眠を支援する ための知識と技術を身に つける。 ・心身機能の低下が睡眠に 及ぼす影響について理解 する。
<p>死に ゆくり人に関した ところからだのしくみと 終末期介護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期に 関連する基礎知識 ・生から死への 過程 ・「死」に 向き合うところの理解 ・苦痛の 少ない死への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期の とらえ方を学ぶ。 ・終末期から死までの 身体機能の変化について 理解し、状況に合わせた 対応を学ぶ。 ・死に直面したときの 人の心理状況について 理解し、こころの変化の 受け止め方を学ぶ。
<p>【生活支援技術演習】</p>		
<p>介護過程の 基礎的理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護家庭の 目的意義展開 ・介護過程と チームアプローチ ・演習を行う にあたって 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の 目的と意義について 理解する ・介護過程の 展開プロセスについて 理解する <p>チームアプローチにおける 介護職の役割と専門性 について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を通じて、 利用者の心と体の力が 発揮できない要因を 分析する ・事例を通じて、 利用者本人にとって 適切な支援技術は何か を検討する
<p>総合生活 支援技術演習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食べたくないと 訴える施設入所者の 援助 ・出来るだけ外に 出かけたいたいと思っ ている利用者の援助 ・トイレでの排泄に こだわりを持つ利用 者の援助 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を通じて、 利用者の心身の状況に 合わせた介護を 提供する視点につ いて理解する

科目別担当教官名

細目番号	細目名	講師名	会場
	オリエンテーション	三友愛	ケアステーション ラクティ日の出
(1)	多様なサービスの理解	三友愛	
(2)	介護職の仕事内容や働く現場の理解	三友愛	
(3)	人権と尊厳を支える介護	三友義信	
(4)	自立に向けた介護	三友義信	
(5)	介護職の役割・専門性と多職種との連携	三友愛	
(6)	介護職の職業倫理	三友愛	
(7)	介護における安全の確保とリスクマネジメント	三友愛	
(8)	介護職の安全	三友愛	
(9)	介護保険制度	橋本綾子	
(10)	医療との連携とリハビリテーション	松木圭子	
(11)	障害福祉制度及びその他制度	橋本綾子	
(12)	介護におけるコミュニケーション	谷井晴美	
(13)	介護におけるチームのコミュニケーション	谷井晴美	
(14)	老化に伴うところとからだの変化と日常	村山美奈子	
(15)	高齢者と健康	村山美奈子	
(16)	認知症を取り巻く環境	松木圭子	
(17)	医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	松木圭子	
(18)	認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	三友義信	
(19)	家族への支援	三友義信	
(20)	障害の基礎的理解	橋本綾子	
(21)	障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的	松木圭子	
(22)	家族の心理、かかわり支援の理解	橋本綾子	

細目番号	細目名	講師名	会場
(23)	介護の基本的な考え方	三友愛	ケアステーション ラクティ日の出
(24)	介護に関するところのしくみの基礎的理解	三友愛	
(25)	介護に関するからだのしくみの基礎的理解	三友愛	
(26)	生活と家事	谷井晴美	
(27)	快適な居住環境整備と介護	寒河江美樹	
(28)	整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	谷井晴美	
(29)	移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	彼島恵理	
(32)	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	村山美奈子	
(30)	食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	彼島恵理	
(31)	入浴・清潔に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	彼島恵理	
(33)	睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	三友義信	
(34)	死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	三友義信	
(35)	介護過程の基礎的理解	三友義信	
(36)	総合生活支援技術演習	村山美奈子	
	実習前オリエンテーション	三友愛	
(37)	振り返り	彼島恵理	
(38)	就業の備えと研修修了後における継続的な研修	彼島恵理	
	筆記試験		

科目別 通信学習の内容・時間

添削課題	2 【7.5時間】		3 【3時間】			4 【7.5時間】			5 【3時間】			6 【3時間】			7 【3時間】			8 【1.5時間】			9 【12時間】											
	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)	(26)	(27)	(28)	(29)	(30)	(31)	(32)	(33)	(34)
科目番号 【規定時間数】	5.0 2.5		1.0 0.5 1.0			2.5 2.5 2.5			1.5 1.5 3.0			1.5 1.5 3.0			1.0 0.5 1.0			0.5 0.5 1.5			2.0 2.0 1.0											
細目番号	7.5		3.0			7.5			3.0			3.0			3.0			1.5			1.0 1.0 1.0											
通信実施時間	7.5		3.0			7.5			3.0			3.0			3.0			1.5			1.0 1.0 1.0											
課題数	1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	1	3	1	2	2	1	1	1	1	1	1	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	5	2	1	1	1	1	3	2	8	1	2	7	1	2	2	1	1	2	1	6	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計	9		8			8			6			7			8			6			22											